

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	令和6年度 第1回行政評価委員会	
開催日時	令和6年4月22日(月) 午後7時00分から 午後9時00分まで	
開催場所	市役所本館2階庁議室	
委員名	(1) 出席委員 加留部貴行、橋内京子、木本圭子、芹野千佳子、中川孝晃、山下永子、近藤春生 (2) 欠席委員 なし	
所管課職員職氏名	事務局 経営企画部長 花田積 経営企画部経営戦略課長 向井泰博 経営企画部経営戦略課経営戦略係長 山本素子 経営企画部経営戦略課経営戦略係 首藤春風	
会 議	議 題 (内 容)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諮問 ・ 評価スケジュールと進め方 ・ 評価対象の検討 ・ 議事録の確認について
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	2名
	資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回行政評価委員会次第 ・ 評価スケジュールと進め方（資料1） ・ 行革大綱取組結果（資料2）（表紙のみ） ・ 施策管理シート（資料3）（表紙のみ）
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	記録内容の確認方法	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

第1回 会議録

1. 市長あいさつ

原崎市長）

昨年度から引き続きお引き受けいただきありがとうございます。

昨年度頂いた答申については、しっかり受け止め、庁内で共有し取り組みを進めているところである。

令和7年1月で福津市は満20年を迎えるため、令和6年度は節目の年である。未来につながる持続可能な行政経営を行うためには、内部評価だけでなく、行政評価委員会にて外部から見たご意見を頂くことが必要である。今年度も率直な意見を頂きたい。

宜しくお願い申し上げます。

2. 会長あいさつ

会長）

今年度も委員をお引き受けいただきありがとうございます。今年度も皆様から忌憚のないご意見を頂きたい。

昨年度は初年度で手探りで進める部分もあったが、今年度は2年目なので昨年度感じたこと等も踏まえながら本格的に取り組みたい。全ての仕事は市民の命や生活につながっているため、市民のためになっているか、そのために職員がより良い環境で動いているか等を考えていきたい。その上で、民間の立場でメリハリをつけた示唆を行いたい。

一年間宜しくお願い致します。

3. 諮問

（市長より諮問）

4. 評価スケジュールと進め方

（事務局説明）

評価の対象は行財政改革大綱実施計画の取組について及びまちづくり基本構想の施策についての二点である。

昨年度は消防団や防災事業といった事業単位で評価いただいた。今年度は施策単位で評価いただきたい。

一番上位として将来像があり、その下に7つのテーマ別の目標像がある。その下に施策として、22の基本方針がある。その下に分野別計画や事業などの単位がある。

今回は、その中で基本方針・施策について取り扱う。

評価事後報告・意見交換は昨年度評価いただいた取組み（⑦大規模公園の使用料の見直し・⑧公共施設の使用料、利用料の見直し、⑬中央公民館の機能の再定義・再配置、⑭野外活動広場（わかたけ広場）キャンプ施設の廃止、⑯大和保育所の機能と運営方法の再構築）が対象である。

現在の進捗について担当課から報告し、意見交換をしていただく。目的はさらなる推進力につなげることであるため、評価コメントは作成しない。

評価スケジュールとしては、第2、3回が行財政改革大綱についての評価、第4回が中間答申と事後報告、第5、6回が施策に関する評価となっている。

行財政改革大綱に関しては、一つの取組みを一時間程度で、一回あたり二つの取組みを評価いただく。

施策に関しては、範囲が広い場合一回あたり一つを評価いただく。

進め方に関して、昨年同様対話型で進め、最後にコメントという形で答申をいただく。担当課から説明、質疑応答、担当課の意向確認、委員からのコメントをいただくという流れで進めていく。

5. 評価対象の検討

○行財政改革大綱

事務局)

事務局で五つの候補

①時間外勤務の削減等によるワークライフバランスの推進

⑩粗大ごみの収集運搬料金の有料化

⑰公衆便所の維持管理費の削減

⑳本木川自然公園（ほたるの里）の民営化

㉔行政手続きの電子申請の促進

を出させていただいたため、それをベースに取り扱う事業を四つ決めていただきたい。

会長)

疑問点や取り扱いたい取り組みなど一言ずついただきたい。

委員)

目標に対する評価がCとなっているものは課題があると考えられるため、取り扱いたい。

Bとなっている取り組みのうち、㉔は目標の数値が低いように感じる。また、①と関連があるので取り上げたい。

委員)

この五事業を候補とした背景を教えてください。

事務局)

評価がCのものが多かったように、概ね上手くいっていないものを取り上げている。⑩については、一区切りついたタイミングであるため評価をいただきたいと思い候補としている。

また、ジャンルがばらけるように調整した。

委員)

⑩については比較的上手くいっているようであるため、外しても良いと感じている。

委員)

⑰について、担当課が地域振興課から観光振興課に変わっているが、地域自治から観光振興に位置づけが変わったのか。また、観光振興の視点では逆にトイレがきれいな方が評価が高い。

事務局)

元々地域振興課の中に観光部門があり所管をしていたが、機構改革で一課として取り出された。そのため、元々地域自治の観点ではなかったが、地域の声も重要と考えお聞きをした。

委員)

近くにコンビニ等はないのか。

事務局)

ある箇所とない箇所があり、ある箇所に関しては削減できるのではないかという思いから始まっている。

委員)

①と㉔はDXとして関連性があると思うが、今回取り扱う場合には両方を関連させて評価することは可能か。特に①について内容が研修に限られているため、ソリューション

部門（システム等により課題解決を行う部門）と合わせて考える必要があるため、二つを一緒に取り扱いたい。

委員)

バランスという意味では「負担の公平化」、「選択と集中」については昨年度取り上げたため、⑩か⑰を削るのが良いように思う。また、①や④は評価が難しいようにも感じる。

委員)

評価がCとなっているものを取り扱いたい。

市民としては、⑩については進んでいる印象があるため、その他を取り上げたい。

①については、昨年度答申にも「職員の健康が担保されるべき」という内容が出てきており、しっかり考えていくべきだと思う。

⑰については、防犯面から考えるとどのような状態であるべきかを確認したい。

また、個人的には教育行政について取り上げたいという気持ちがある。

委員)

市民目線で考えると、④に関してはマイナンバーカードの保有やマイナンバーを活用した申請などはある程度進んでいるように感じるため、これ以上取り扱わなくてもよいように感じる。

⑰については8か所から7か所に削減するという目的でよいか。

事務局)

その通りである。しかし、現在では箇所数自体は減らさずに維持費を削減するという目線でも考えている。

委員)

苦情や良くない環境になっているという話はよく耳にする。

また、現状では教育行政を最も取り扱いたいと思う。

事務局)

行財政改革大綱に関しては、教育行政の取り組みが含まれていないため、この中から選択いただきたい。

後半の施策に関する評価を選択いただく中で議論をいただきたい。

会長)

以前の大綱と比べると全般的に行政サービスの再構築に関して「廃止」、「民営化」の表現が増えており、切羽詰まっていることを感じているのでしっかり考えたい。

会長)

その他、昨年度も今年度も候補となっていないもので気になるものはあるか。

委員)

①については②AI・OCR、RPAの導入による業務効率化、③電子決裁の拡大による業務効率化とペーパーレス化の促進、④システムの共通化（自治体クラウド）の利用による効率化と費用の削減と密接に関連があり、①だけを見ても意味がないように思う。

現状はどうなっているのか。

事務局)

②については導入業務数が指標となっている。AI・OCRについては良いシステムが見つかっておらず導入に至っていない。RPAは進んでおり、B評価となっている。

委員)

AI等についてはとても速いスピードで進化している。

①はまず職員の負担が減らなければ達成できないため、②～④や⑭を参照しながら進めるべきであると思う。

⑭については市民利用の視点でしか書かれていないので、職員負担の面からも見るべきであると感じる。

事務局)

⑭は市民の利便性と業務の効率化による職員の負担軽減の両面を図りたいと考えている。

後者の効果としては②の方が影響が大きいように感じる。なお、AIについては生成AIの方向にはまだ進んでいない。

委員)

市役所としてシステムを導入するだけでなく、個人的に業務の効率化や生活のために取り入れるやり方もある。そのようなことを①に関連して申し上げたい。

会長)

AI、OCR、RPAはDXの手段でしかないため、取り入れる基準や目的をしっかりと考えるべきである。組織がそのような考え方に対応できなければ、職場の環境整備も進まずに、今後の若い世代の離職も進むことも懸念される。

委員)

①については、無駄なことをしていないかの業務の洗い出しの必要がある。DXや考え方について評価したい。

会長)

業務量の把握、検討については具体的に測るのが難しいが探究に値する。

委員)

行財政改革は削減だけでなく、どのように収入を生み出すかという視点が重要だと思う。福津市はそのような部分が他の自治体に比べて上手くいっていないように感じるため、民間の視点等も含めて検討するべきだと思うが、⑳クラウドファンディングによる新たな財源の確保（資金調達）、㉑企業版ふるさと納税による新たな財源の確保（税控除制度の活用）などは現状どうなっているのか。

人口が増えることで扶助費等も拡大するため収入につながっていないということが市民には伝わっていない。

事務局)

㉑については、現状実績がない。クラウドファンディングを行える事業を探している。

㉒については、件数は目標を上回っており昨年度は4件の寄付をいただいている。

会長)

頂いた意見をまとめる。

①については、業務の効率化という背景が重要であるため②の方を取り上げる。また、⑭についても抱き合わせで取り上げる。

⑩についてはある程度上手くいっているため取り上げない。

⑰、⑳については上手くいっていないため取り上げる。

財源確保の視点として、上手くいっていない㉑を取り上げる。

②、⑰、⑳、㉑を取り扱うということで如何か。

事務局)

②の担当は情報化推進課、①の担当は人事秘書課のため、②の中で時間外削減の話をして上手く進まないように思う。

会長)

①の中に②を取り入れて、業務量や効率化の話をすることにする。

事務局)

⑳については予算要求の段階で呼びかけをしているが出てこない現状である。どのような評価を頂くことになるのか想像が出来ていない。

会長)

そもそもクラウドファンディングという手法が目的に合っているのかということや活用方法についても検証ができる。また、他自治体の取組についても意識したい。例えば、先般の北九州市小倉の中心市街地で火事が起こった際には瓦礫の片づけをクラウドファンディングで行ったことで迅速に進んだ話もある。最近の福津市は視野が内側に目が向いており、他自治体の研究が足りていないように感じるので留意してほしい。

委員)

①、②のように縦割りであることを感じる。他部署との連携を意識してほしい。

事務局)

DXについては統一方針を作成し、全庁的にDXを進めることや職員の意識改革が重要として今年度以降取り組みたいと考えているため、①、②を合わせて取り扱うのは良いように感じる。

会長)

それでは、①と②をセットで、そのほか⑰、⑳、㉔を取り扱う。

①・②と㉔がソフト、⑰、⑳がハードと感ずるため、その組み合わせとしたい。

○施策

事務局)

施策単位で選択をしていただきたい。

委員)

1-1、4-2が一番身近に感ずるため取り扱いたい。

委員)

1-1が停滞しているため取り上げたい。

学校と地域の連携が進んでいる現状では、生涯学習や社会教育は3（健康）ではなく、1（共育）に入るのではないかと思った。

また、災害が続いているため、4-1や4-2は気になる。

事務局)

社会教育等に関して、事業は一つの施策だけでなく、複数の施策と関連していると考えている。

委員)

タイトルから感ずる印象と事業の数や内容に乖離があるように感ずる。財政的な視点からは予算が多く割かれている施策や、単独事業が多くなっている施策の方が重要と考えるため、3-2と4-2を取り上げたい。

委員)

自分の分野に近いのは7-2であるが、観光客と市民を切り離しているように感ずる。

現在観光は観光客対象だけでなく、市民がまちの魅力を知りまちおこしにつなげるという視点もある。市民啓発と観光を一体となって行う拠点を作るべきと感ずるため、7-2を取り上げたい。

委員)

どのように稼ぐかということを考えたいため、7-1や7-2を取り上げたい。
また、6-3についても重要であるように感ずる一方であまり予算がかかっていない現状があるため、取り上げたい。

委員)

行政評価という視点では課題が多くあるものを取り上げたいため、1-1、4-2を取り上げたい。
個別の事業ではなく、全体を見たい。

会長)

1-1、3-2、4-2、6-3、7-1、7-2などについて、どの程度のボリュームとなるのかを見たい。どれを取り上げるかを第4回で決めるという方法を取りたい。よろしいか。

委員全員)

賛成。

事務局)

事務局としても評価にどの程度の時間がかかるのか、ご負担をしていただくのかについて明確には分からない。また、施策管理シートについてはこれから作成を進めるものであるため、細かいスケジュールや取り扱う数などについては改めてご相談させていただきたい。

6. 議事録の確認について

議事録については、昨年度同様委員の皆さまにご送付するためご自身の発言についてご確認いただきたい。最終的には会長にご判断いただく。
また、資料を作成する中で、的を射たものを作りたいため、質問等があればメールでいただきたい。

会長)

以上で終了する。次回は5月20日(月)19時からである。